

笠岡市飛島での地域活性化PBLと教育効果

Regional Revitalization and Educational Effect through PBL in Hishima, Kasaoka City

(2020年3月31日受理)

佐々木公之 山下 真弥
KimiYuki Sasaki Maya Yamashita

Key words : 飛島, 笠岡諸島, 地域活性化, フィールドワーク, 課題解決型学習, PBL

概 要

本稿は、代表筆者自身が運営する中国学園大学国際教養学部（以下、本学）のゼミナールの取り組みとして2018年度、2019年度に行われた「笠岡市飛島での地域活性化PBL」（以下、本プロジェクト）を通じて、過疎化・高齢化が進む「中山間地域の活性化」を主体的に取り組んだ学生たちが、どのような体験をし、何を学び得たかをあきらかにすることをねらいとしている。

2年間にわたる地域活性化のゼミ活動を振り返り、本プロジェクトに対する島民からの評価から、本プロジェクトの成果を検証するとともに、PBLに参加した学生たちを対象に実施した半構造化インタビューの結果とコメントをもとに、本プロジェクトの教育効果について考察する。

1. 背景と目的

まず、代表筆者が運営する佐々木ゼミナール（以下、本ゼミ）の概要を説明しておきたい。本ゼミでは、以前より企業・行政から依頼された実際の課題に対してPBL（Project-Based Learning, 課題解決型学習）としてフィールドワークを行い、そこから得た経験やデータを卒業論文にまとめる学びを行ってきた。打越（2017）は、自身が運営する法学などの文系的なゼミナール教育において、「大学の教室でのディスカッションも大切であるが、現場でのフィールドワークを通じて地域活性化に向けて貢献できる組織であることを意識することも重要だ」と述べている¹⁾。本ゼミも同様に、フィールドワークを通して実際に地域に赴き現状を見聞きすることで、学生の社会問題への意識と、地域に貢献する意欲が高まることを期待して、2016年よりゼミナール教育にPBLやフィールドワークなどのアクティブラーニングを取り入

れている。

また、本ゼミがPBLを用いて学生の成長に期待するもう一つの狙いとして、学生の社会人基礎力向上を図る狙いがある。社会人基礎力とは、2006年に経済産業省が提唱した「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」として、「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」の3つの能力（12の能力要素で構成）の総称である²⁾【図表1】。2006年、経済産業省が企業向けに行った「社会人基礎力に関する緊急調査」では、9割弱の企業が社会人基礎力をベースとした産学連携への取組に賛同している³⁾。

PBLは、地域社会と連携した課外活動や少人数グループワーク等を通じ、様々なビジネス課題の解決提案・プレゼンテーション等を行う教育手法である。従来の座学やインターンシップではなく、実社会でプロジェクトを展開する実体験が必要だとして、近年では多くの大学がビジネス実務教育の一環として取り入れている。水野

(2019) は、「大学でのPBL型教育を通じて学生が『学内外の他者との折衝』『人間関係を構築して議論を行い自らが判断をすること』で、学生自身が成長を実感できる」⁴⁾としている。浅野(2013)は、「PBLは伸びしろのある学生を开花させる方法の一つだと感じている」⁵⁾としている。

大学生が、地域が抱える課題に対して自由な発想で企画提案を行い、地域と関わりながら何らかの解決提案を行うことは、実際に地域活性化への貢献につながる。さらに、4年間という長いようで短い大学生活の中で、実社会に役立つ社会人基礎力が学べ、教育効果も高いとして、本ゼミでもPBLを取り入れている。

本ゼミの特徴として、先輩、後輩に関係なく希望者でプロジェクトチームをつくり、実際に地域が抱える課題に対して、学生たちが主体となって解決する手法で活動を行っている点である。PBLとしての教育効果を高めるため、学生が考える企画等については、極力教員は口を挟まず、学生の自主性とアイデアを尊重することになっている。過去には「岡山県鏡野町での買い物弱者課題解決」「倉敷市真備町ケアファームプロジェクト」「岡山市表町商店街の活性化」などに取り組んできた。

今回、笠岡市飛島でのPBLでは、2018年度は2年生～4年生13名のゼミ生が参画し、2年目の2019年度には、そのうち4名の学生が本プロジェクトの継続を希望して、より深い活動を行った。

2. 活動場所の設定

2-1. 岡山県中山間地域の現状

岡山県中山間地域の振興に関する基本条例第2条では、中山間地域を「山間地及びその周辺の地域等地理的及び経済的条件に恵まれない地域で、『山村振興法に規定する山村』『特定農山村地域における農林業等の活性化のための基盤整備の促進に関する法律に規定する特定農山村地域』『過疎地域自立促進特別措置法に規定する過疎地域』のいずれかに該当する地域」と定義づけている。さらに農林水産省は、「本土より隔絶している離島」も中山間地域と位置付けている。

岡山県は全県域27市町村のうち、22の市町村に中山間地域が存在する上に、岡山市犬島地域、倉敷市児島諸島地域、笠岡市笠岡諸島地域など離島6地域も中山間地域に含まれるため、県土の約4分の3が中山間地域ということとなる⁶⁾。

2-2. 笠岡市飛島（大飛島と小飛島）について

笠岡市笠岡諸島地域は、岡山県の西南部に位置する笠岡市の沖合に浮かぶ、大小31の島々の総称である。そこには、人口900人弱の北木島から、70人ほどの六島まで、総人口1,800人ほどの7つの有人島がある。

笠岡諸島の基幹産業は、石材業（北木島）、漁業（神島）、観光業（白石島）など、それぞれに特色がある。笠岡市は、

図表1：社会人基礎力

3つの能力	12の能力要素	詳細説明
前に踏み出す力 (Action) ～一歩前に踏み出し、失敗しても粘り強く取り組む力～	主体性	物事に進んで取り組む力
	働きかけ力	他人に働きかけ巻き込む力
	実行力	目的を設定し確実に行動する力
考え抜く力 (Thinking) ～疑問を持ち、考え抜く力～	課題発見力	現状を分析し目的や課題を明らかにする力
	計画力	課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力
	創造力	新しい価値を生み出す力
チームで働く力 (Teamwork) ～多様な人々とともに、目標に向けて協力する力～	発信力	自分の意見をわかりやすく伝える力
	傾聴力	相手の意見を丁寧に聴く力
	柔軟性	意見の違いや相手の立場を理解する力
	状況把握力	自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力
	規律性	社会のルールや人との約束を守る力
	ストレスコントロール力	ストレスの発生源に対応する力

【経済産業省：人生100年時代の社会人基礎力より筆者作成】

2013年に笠岡諸島振興計画を策定し、2022年までの10年計画で、各島々での豊かな自然と伝統的文化・歴史を活かした島おこし、観光客増加による地域活性化活動などを行っている。2019年7月には、笠岡市、丸亀市、小豆島町、土庄町の2市2町による石切り文化が日本の礎を築いたとして、日本遺産に認定された。

本プロジェクトの笠岡市飛島は、笠岡港から南に航路距離約26kmのところにある2つの有人島（大飛島と小飛島）の総称である。ともに、瀬戸内海の中央に位置し、古くから瀬戸内海の交通の要衝とされていた。島内には約600本の藪椿が自生しており、古くから椿の実を集めて搾油器にかけ天然純度100%の「椿油」を精製し販売している。笠岡諸島振興計画では、飛島振興の基本方針の一つとして、「陸地部との相互交流（高齢者、子供等世代間交流等）を行い、島の良さをPRする」としている。毎年3月に開催される椿祭り、夏の海水浴、また、近年では昔懐かしい日本の風景が残っている島として話題となり、徐々に観光客が増加している。

しかしながら、人口減少は厳しく、大飛島と小飛島の総人口は1990年325人、2011年102人、2019年91人と約30年間で7割も減少している。さらに高齢化率も深刻で、高齢者（65歳以上）が人口の79.3%を占めており、笠岡諸島の中でも飛島はもっとも高齢化率の高い地域となっている⁷⁾⁸⁾。

2-3. なぜ、笠岡市飛島なのか

本プロジェクト参画のきっかけは、共著者の学生A（当時3年生）からの強い要望であった。笠岡市飛島には学生Aの祖父母が在住しており、学生Aは、幼少期の1年間同地に住んでいたこともあって、毎年数回飛島へ帰郷していた。学生Aは、帰郷するたびに人口減少と高齢化が進む飛島の未来を憂い、大学入学時より機会があれば祖父母が住む大飛島での地域活性化について研究したいと考えていた。2018年5月、外部講師を招聘して行う本学での講義「トップリーダー経営論」（3年生対象）で笠岡市役所勤務のM氏から、飛島を含めた笠岡諸島での地域活性化の取組みについて聴講した。これを機に、学生Aの希望も重なり、ゼミ活動の一環として中山間地域である笠岡諸島飛島を拠点とした本プロジェクトが始まった。本プロジェクトは、笠岡市役所との協議の結果、

学生Aがリーダーとなり祖父母が住む、人口38名の大飛島（以下、飛島）にて2年計画で行うこととなった。

3. 笠岡市飛島でのPBL

3-1. PBL（課題解決型学習）の課題設定

2018年度・2019年度共にPBLの課題テーマを、「学生視点での観光客増加と椿オイルのプロモーション戦略の調査・研究」と設定した。笠岡市役所からは本ゼミへ「椿油等の収穫をサポートして欲しい」「学生を含め多くの方々に飛島に来て、飛島の良さを知ってもらいたい」「椿をキーワードに交流人口を増やしたい」との要望があった。

3-2. 本プロジェクトの活動計画作成

交通費などの学生の活動費負担を軽減するため、岡山県の補助事業「地域に飛び出せ大学生！おかやま元気！集落研究・交流事業」（以下、本補助事業）に補助金を申請し、本プロジェクトは採択された。本補助事業は、岡山県の集落が抱える地域課題を、地域と協働して現状把握・課題分析を行い、課題解決や地域活性化に向けた実践的な検討や取り組みを行う大学の研究活動を支援するものである。本補助事業は、若者の視点や発想を生かした課題解決・地域活性化方法の企画立案を促すとともに、若者と中山間地域との交流を促進し、若者の中山間地域への関心や愛着の醸成を図る目的である。本プロジェクトは、この補助事業の趣旨に合致するものであったため本補助事業の対象となり、活動費をほぼ岡山県からの補助金で賄うことが可能となった。

2018年6月、本プロジェクトを行うにあたり、笠岡市役所のM氏、NPO法人かさおか島づくり海社のN氏、リーダー学生Aが活動内容、活動スケジュールについて打合せを行った【写真1】。NPO法人かさおか島づくり海社とは、2002年設立の「電脳笠岡ふるさと島づくり海社」を経て2006年に設立されたNPOである。笠岡諸島の北木島に本社を、飛島など各島に支所を置き、地域の公共的役割を担い、住民の困り事や要望を事業化し、福祉、教育、特産品開発、都市住民との交流等幅広く事業をおこなっている⁹⁾。M氏、N氏より、飛島住民の現状を聞き取り、要望などを組み入れながら、学生Aが中心

となり活動計画を作成した。

写真1 M氏、N氏、学生Aとの協議



3-3. 2年間（2018年度、2019年度）の活動計画

2018年度

■飛島での椿油等の収穫サポート

学生たちが実際に椿の実収穫体験を行うことで、椿収穫の困難さを理解する。

■学生視点での「椿祭り」「椿オイル」の認知度アップとマーケティング調査研究

飛島の地域資源である「椿」のブランド力向上と認知度アップの取組みを行う。

■飛島の交流人口増加施策

住民と学生たちが意見交換を行い、飛島への観光客、移住者など交流人口増加の施策を検討する。

2019年度

2年目は、飛島自治会から、1泊2日の短期間ではなく6泊7日で島民宅に宿泊し、交流を深めながら農作業などのボランティア活動を行い、島民へのアンケート調査を通じて島の課題や改善方法について検討して欲しいとの要望があった。

■マーケティング支援

椿オイルのラベル変更とブランディングを行う。

■島民との交流、敬老会、椿祭りのイベントサポートと企画

椿祭り（3月）、敬老会（9月）で歌やクイズなどのイベントを企画しサポートを行う。

■島民との意見交換とアンケート調査実施

活動を自己満足で終わらせず、島民の意見を聞くことで研究のまとめを行う。

■飛島の現状や課題解決提案の遡及

笠岡市長への報告会や学会での発表により、地域活性化の課題を広く提起する。

3-4. 実際の活動内容

時系列での実施内容は図表2の通りである。

図表2 本学学生による具体的な実施内容

実施日	取組み内容等	
2018年	7月6日	本事業の申請内容について打合せ
	8月22・23日	現地調査：島民と学生との交流
	8月25日	日本ビジネス実務学会中国・四国ブロック会
	11月18日	現地調査：PV制作
	12月9日	表町商店街にて椿オイル販売支援
	12月22日	クリスマス会
2019年	2月12日	笠岡市役所小林市長
	2月19日	岡山県合同成果報告会
	3月10日	つばき祭り
	8月21・22日	小豆島合宿、視察（活性化事例を学習）
	8月24日	日本ビジネス実務学会中国・四国ブロック会
	9月13・19日	現地調査：飛島1週間体験合宿 椿収穫・農作業などのボランティア活動とアンケート調査
2020年	12月8日	表町商店街にて椿オイル販売支援
	2月18日	笠岡市役所小林市長
	2月19日	岡山県合同成果報告会

3-5. 具体的な活動内容

(1) 製造工程視察と島民との交流

2018年8月、学生8名が参加し、1泊2日での民泊にて飛島の視察を行った。初日は、椿オイルの製造工程を視察【写真2】、また、10名を超える島民に参加いただき会食などを含めた意見交換が行われた【写真3】。2日目は、男子学生は草刈り、肩もみ、女子学生は料理の手伝い、施設の掃除などのボランティア活動を行った。

写真2 椿オイル製造工程を視察



写真3 島民と学生との意見交換会



(2) 飛島のPR活動（プロモーションビデオ撮影）

2018年11月、女子学生4名が参加し、飛島の観光客増加のためのPV（プロモーションビデオ）制作とSNSでの観光スポット情報発信を行った【写真4】。

写真4 PV制作



(3) クリスマス会の開催

2018年12月、島民と学生との交流を目的に、クイズ、合唱、お菓子作りなど全て学生たちの企画によるクリスマス会を主催した【写真5】。

写真5 学生によるクリスマスイベント



(4) 特産品椿オイルのラベル変更と販売支援

2018・2019年岡山市表町商店街で開催された岡山県主催の中山間地域の特産品販売会において、島民からの要望により椿オイルの販売を支援した【写真6】。また、島の大イベントの一つ椿祭りでも椿オイル販売とPR活動をサポートした【写真7】。

写真6 椿オイル販売支援



写真7 椿祭りサポート



(5) 笠岡市長と日本ビジネス実務学会にて飛島の現状を発表

笠岡市長へ活動報告と課題解決提案を行った【写真8】。また、大学生のPBLなどを研究するビジネス実務学会中四国ブロック大会にて取組みを発表した【写真9】。

写真8 笠岡市市長への活動報告



写真9 学会での発表



(6) 飛島でのボランティア活動と意識調査

2019年9月、1週間民泊し、椿の実収穫、草取り、敬老会の準備などのボランティア活動を行った。また、島民からの意識調査アンケートを、飛島自治会の指導のもと実施した【写真10, 11, 12, 13】。

写真10、11、12、13 飛島でのボランティア活動と意識調査



4. アンケート結果

笠岡市飛島の現状と本プロジェクトの効果検証を行うため、2019年9月、学生が島民宅を訪問してアン

図表3：アンケート回答者

性別	
男性	女性
11名	7名

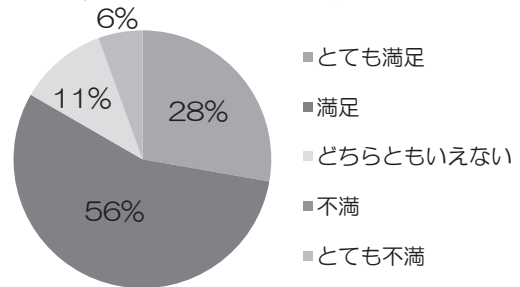
ケート調査を実施した。アンケートの質問と回答を示し考察を加えたい。

アンケートの属性は図表3となっている。

4-1. アンケート①：飛島の生活満足度

飛島の生活満足度として84%の島民が満足していると答えている。多少の不満を感じている部分はあるが、生活全体としてはおおむね満足していることがわかった【図表4】。

図表4：飛島の生活満足度 (n=18)

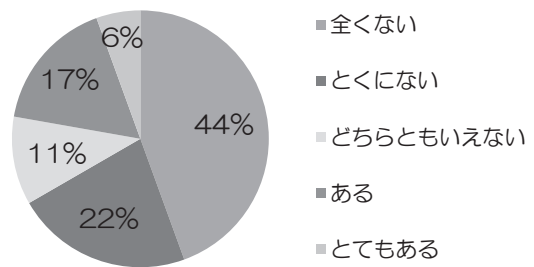


4-2. アンケート②：飛島の生活で困っていること

半数以上の島民が島の生活の中で困ることは「全くない」、「とくにない」と回答していた。

「困っていることがある」と回答した島民からは、「若いときは困ると思うことはなかったが、高齢になるにつれて増えてきた」という意見もあった【図表5】。

図表5：飛島での生活で困っていること (n=18)

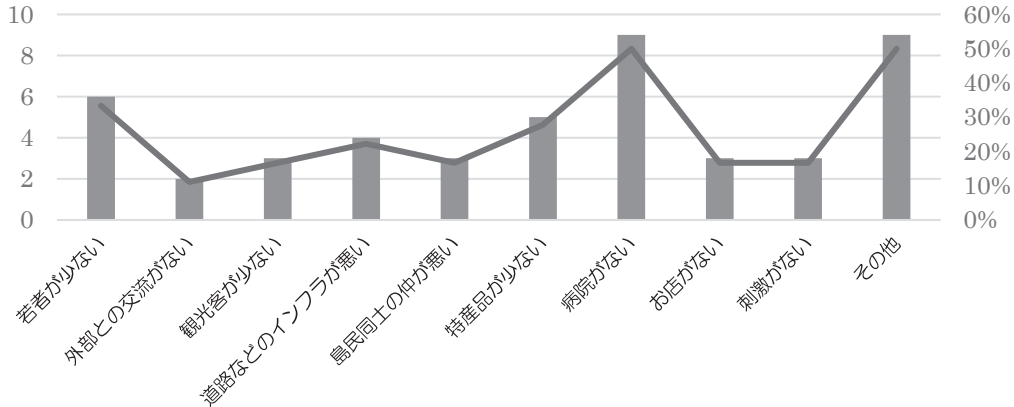


4-3. アンケート③：飛島の悪いところ

飛島の悪いところとして回答が多かった項目は順に「病院がない」「若者が少ない」「特産品が少ない」「道路などのインフラが悪い」であった。

道路、電波環境、病院などの生活インフラと若者の労働力不足などに不満があると考えられる【図表6】。

図表 6 : 飛島の悪いところ (n=18)

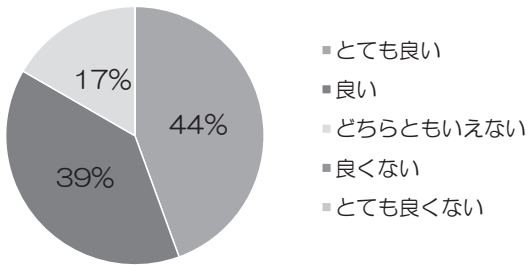


4-4. アンケート④：中国学園大学の取り組みについて

本プロジェクトに対しては島民の約80%が「好意的」に感じ取っていることがわかった。

「どちらともいえない」と回答した人からは、「この活動自体は良いと思うが、継続可能でなければ良いとは言いきれない」という意見もあった【図表 7】。

図表 7 : 本プロジェクトについて (n=18)



4-5. アンケート⑤：学生たちへの要望

学生には「イベント企画」「椿オイルの企画・販売」「農作業サポート」「飛島のPR」などを頼みたいとの意見があった。

多くの島民がイベントや交流を通して学生(若者)と関わりを持つことを求めていることがわかる【図表 8】。

図表 8 : 学生たちへの要望 (n=18)

要望項目	集計(人)	割合
イベントの企画	11	61%
椿オイルの企画・販売	6	33%
農作業サポート	6	33%
話を聞いてほしい	5	28%
観光客誘致	2	11%
飛島のPR	5	28%
その他	3	17%

4-6. その他、島民から意見・感想

- ・歳を重ねるごとに通院や買い物をするために笠岡市街まで出ることによる不自由さを感じている。だが、生まれ育ち住み慣れた飛島が好きで離れて過ごそうとは思わない。
- ・島外の人(特に、若者)との交流や移住者を増やしてほしい。
- ・島の特産物である「飛島の椿オイル」は販売増加を願っているが、高齢化に伴い収穫作業が年々難しくなっており、大量生産が難しい。
- ・本ゼミの取り組みは「若い人と交流すると元気が出る」と島民に大変好評だったが、リーダー学生Aが卒業すると関わりが難しくなることが残念。
- ・学生さんたちが飛島に来て盛り上げてもらって感謝している。とくに、学生の企画で開催されたクリスマス会は、島の人と学生たちが、一緒に合唱したり、ゲームやクイズをしたり大変好評であった。飛島を元気にするには、若い人たちに島に来てもらい交流の機会を

持つことが良いと改めて思った。今後とも敬老会や、クリスマス会など学生たちが企画に参加して、島の人たちを元気づけてもらいたい。(飛島自治会 会長 M氏)

5. 本プロジェクトの所感と参加学生の学び

本プロジェクトの教育効果を図るため、学生4名に対して半構造化インタビュー調査を実施した。学生4名とは、2019年9月13日-19日に6泊7日で島の民家に宿泊し、島民との交流深めながら椿の実収穫や敬老会のサポート、島民に対しての意識調査アンケートを行った学生たちである。学生4名に対して、本プロジェクトに対しての所感と、特に学びがあった社会人基礎力の能力要素は何か(上位5つ)についてインタビュー調査を行った【図表9】。

6. 本プロジェクトの所感と教育効果の考察

本プロジェクトに対して、良い取り組みだとする島民の意見が80%を越え、飛島の自治会だけでなく、笠岡市役所、岡山県庁からも高評価をいただくなど、学生たち

の活動が島の地域活性化の一助になったと考えられる。しかし、「長期継続可能でなければ評価できない」という一部島民からの意見もあり、毎年学生が入れ替わるためゼミ活動でのPBLが長期にわたるプロジェクトとして継続性が難点があるなどの課題も残った。

PBLのテーマであった「学生視点での観光客増加と椿オイルのプロモーション戦略の調査・研究」については、動画の作成やSNS利用など高齢の島民が苦手な部分を課題としてピックアップした。そして、学生たちが主体となりSNSでの情報発信や、プロモーションビデオ制作を行いインターネット上にアップロードするなど、学生が得意とする分野を活かした取り組みを行い、一定の成果があったものと考えられる。

教育面においては、椿オイルの販売体験、敬老会や椿祭りの企画・運営、官公庁との打ち合わせなど、学内では体験できない多くの実践的学びがあった。とくに、6泊7日で島民宅に宿泊し、飛島の歴史や食糧調達、医療福祉の問題など現地でしか得られない情報を体得した経験は、学生たちにとって大きな財産となったといえる。何でもインターネットから簡単に情報を得られる現代社会において、実際に現地に赴き、自分で見て聞いて得た情報の重要性を実感できる良い経験となったと思われる。

【図表9】参加学生への半構造化インタビュー調査

学生	本プロジェクトに対しての所感	学びがあった能力要素
学生A	若者が直接交流することが島民たちの元気の源になることを実感した。現地に赴き現状を理解した上で、交流し信頼関係を構築することが何よりも大切なことだと思った。また、学生はあくまでもわき役であり、地域の方が主人公にならなければとらないと思った。	主体性 創造力 発信力 傾聴力 規律性
学生B	島民の方が衣食住を含めて生活にあまり困っていないことに驚いた。浅瀬で海産物をとったり、田畑で野菜を収穫したりと自給自足の生活が可能であった。コミュニケーションを通じて学生たちを快く受け入れてくれた島民の方々のやさしさに触れることができ嬉しかった。	主体性 課題発見力 働きかけ力 発信力 傾聴力
学生C	飛島の課題は、観光客を誘致することと、そのための環境を整備することだと思った。外部(特に若者)との交流を大変喜んでおられることも分かった。島内は、環境整備が進んでおらず、観光する場所も少ないと思った。	主体性 課題発見力 働きかけ力 発信力 傾聴力
学生D	島へ行く前は、飛島の生活を不自由だと決めつけていたが、アンケート調査や会話の中で、生活を不便と思わず釣りや畑作などの自給自足や島民同士の助け合い生活が楽しいとの意見があり驚きがあった。一方で、草刈りや椿の採取、オイル製造に対しての労働力不足を感じた。	課題発見力 働きかけ力 発信力 傾聴力 規律性

る。

学生たちが、社会人基礎力の中でもより学びがあったと感じた能力要素として、4人の学生全員が「発信力」「傾聴力」を挙げていた。異年齢のかたに対して、自分の意見や考え方をどうわかりやすく伝えるか、また、相手の意見をいかに丁寧に聴くかなど、学生たちが島民とコミュニケーションをとるうえで少なからず試行錯誤したことがうかがえる。学生時代は、価値観の近いもの同士が集まる狭いコミュニティの中で行動することが多いため、他人との意思疎通に苦労することは少ないかもしれない。しかし社会に出れば、目上の上司、多種多様な顧客等を相手に、自らの意見をわかりやすく伝え相手の意向を的確に読み取る必要性に迫られる。学生たちは今回の活動を通して、社会に出てまず大切なのはコミュニケーション力だということを実感できたのではないだろうか。

また、多くの学生が「主体性」「課題発見力」「働きかけ力」の学びを挙げている。イベント企画や椿オイルのプロモーションなど自らが島の抱える課題を見つけ出しその解決方法を導き出すことで、さまざまな気づきがあったものと考えられる。昨今の若者は指示したことはできるが自分で考えて動くことか苦手だと言われている。社会では自ら課題を見出し、トライ&エラーを繰り返しながら主体的に問題解決に取り組む力が求められる。本プロジェクトに参加した学生は、社会から求められる力の重要性を活動の中で体得したと言えるだろう。

今回、リーダーを務めた学生Aは、入学直後から、在学期間中に笠岡市飛島での地域活性化に取り組み、研究することを希望していた。学生Aは、アンケート調査や島民会議を通じ、実際に飛島が抱えている課題に触れることで机上では修学できない「気づき」を得て、研究の集大成として「笠岡市飛島の地域活性化～2年間のPBLを通じて課題発見と解決提案～」のタイトルで卒業論文をまとめた¹⁰⁾。本プロジェクトが深い学びの追求へと繋がったことを確信している。

7. おわりに

2019年9月、参加した4名の学生たちが6泊7日体験報告会で、島民の前で涙を流しながら活動を振り返り、

その報告を聞いていた多くの島民たちも同様に涙を流していた。村江・見館(2019)は、発達心理学者Hoffmanの研究から、共感のプロセスを相手の思考や感情に対して内的状態が生じる「情動的共感」と相手の思考や感情を知的に認識する「認知的共感」の相互作用によるものとしている¹¹⁾。本プロジェクトにおいて、敬老会での共同作業や民泊で寝食を共にした体験、さらに、インタビュー調査を通じて島の現状や学生の考え方などを互いに知ること、「頭による知的理解」と「心による情的理解」の相互作用となり、共感のかたちとして涙へと繋がったものと思われる。人とのつながりが希薄となりつつある現代社会において、他人同士が共感し合い深く触れ合ったこの経験は、学生たちの心に、何事にも代えがたい体験として刻まれたのではないだろうか。

文部科学省は、今後の学校教育・職業教育の在り方の中で、『「地域の人材は地域で養成する』という観点に立ち、地域の学校や産業界、関係機関等の密接な連携のもとに実施することが重要¹²⁾』としている。近年、「人生100年時代」といわれる中で、「社会人基礎力」はその重要性を増している。2017年に開催された、「我が国産業における人材力強化に向けた研究会」は、能力を発揮するにあたって、自己を認識してリフレクション(振り返り)しながら、目的、学び、統合のバランスを図ることが、自らキャリアを切りひらいていく上で必要だとしている²⁾。

常日頃から、学生に対しては、「百聞は一見に如かず」の原則どおり、常に自らその場に赴き、「現場」、「現実」、「現状」を知ることの大切さと必要性を指導してきた。本プロジェクトに携わった学生たちが、この体験をリフレクションしながら自らのキャリアを切りひらき、社会で活躍することを期待している。

謝 辞

本研究は2018年度、2019年度の「地域に飛び出せ大学生!おかやま元気!集落研究・交流事業」(岡山県)補助金事業として実施した。本補助事業を使用することで金銭的負担を軽減でき、学生たちが度々笠岡市飛島へ足を運ぶことが可能となった。

また、笠岡市役所の担当者様、飛島の住民の皆様、そ

の他このプロジェクトに関わってくださった方々に御礼申し上げたい。

参 考 文 献

- 1) 打越綾子「地域活性化の条件を考える（ゼミナールにおけるフィールドワークを素材に）」『成城法学』85号, 2017, pp299-326
- 2) 経済産業省, 「社会人基礎力」, <https://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/>, 2020. 3. 30取得。
- 3) 経済産業省, 「社会人基礎力に関する緊急調査」, <http://ono-tera.com/sanko-shiryosyakaijinkiso.pdf>, 2020. 3. 30取得。
- 4) 水野武 (2019), 「PBL型教育における能力の進捗と授業満足度の関係」, ビジネス実務論集 (37), pp 97-107,
- 5) 浅野英一 (2013) 「「よそ者, 若者, 大学生」と過疎地域活性化におけるその役割と教育効果 : 撰南大学PBL学生プロジェクトの実践を検証する」, 大学教育と情報, 2013, pp 16-19
- 6) 岡山県, 「岡山県の中山間地域とは」 <https://www.pref.okayama.jp/page/513068.html>, 2020. 3. 30取得。
- 7) 笠岡市役所「行政区・年齢別人口集計一覧表2019年10月1日現在」, <https://www.city.kasaoka.okayama.jp/uploaded/attachment/22107.pdf>, 2020. 3. 20取得。
- 8) 中国地方整備局, 「中国みなおオアシス」, <https://www.pa.cgr.mlit.go.jp/minatooasis/kasaoka/index.html>, 2020. 3. 30取得
- 9) 農林水産省, 「特定非営利活動法人かさおか島づくり会社」, <https://www.maff.go.jp/chushi/kyoku/muradukuri/pdf/h22okayama1~2.pdf>, 2020. 03. 11取得。
- 10) 山下真弥, 「笠岡市飛島の地域活性化ー2年間のPBLを通じて課題発見と解決提案ー」, 2019年度中国学園大学国際教養学部提出卒業論文
- 11) 村江史年・見館好隆「災害ボランティアに参加することで生じた防災意識の形成プロセス : 熊本地震と九州北部豪雨の参加者比較を通じて」, ビジネス実務論集 (37), pp1-12,
- 12) 文部科学省「第6章 キャリア教育・職業教育の充実のための様々な連携の在り方」, https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/004/siryo/attach/1303768.htm, 2020. 3. 30取得。